

学校だより

学校教育目標

「心身ともに健康で、温かい思いやりの心をもち、自ら学び自ら考える児童の育成」

平成30年度 学校通信 学力特集号

(平成30年11月16日)

北九州市立穴生小学校

校長 金子 二康



あのお



平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

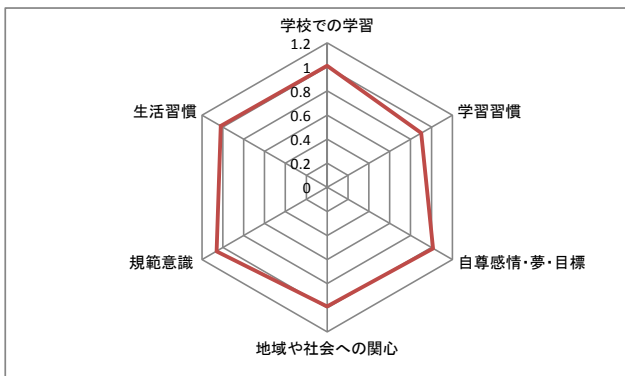
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的には、全国平均正答率とほぼ同程度であったが、下回っている領域もある。 ・長文を読んで、解答する問題が苦手である。	下回っている。
国語B	・全体的に、記述式の問題の正答率が下がる傾向にある。字数制限がある中で、解答することが苦手である児童が多い。昨年度からの課題である。	下回っている。
算数A	・図形の問題は比較的よくできているが、少し思考を必要とする問題になると正答率が下がる。	下回っている。
算数B	・一部全国平均正答率を上回っている問題もあるが、多くの問題で下回り、無解答率が高い。	下回っている。
理科	・全体的には、全国平均正答率とほぼ同程度であったが、下回っている領域もある。	下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>学校での学習や生活習慣、規範意識、地域や社会への関心、自尊感情・夢・目標等の設問では、ほぼすべてで80パーセント以上の児童が肯定的な意見を回答し、全国平均と同程度である。これからも、短期、中期、長期にわたる目標設定や学校生活全体を通して道徳科等で学習したことを生かしていく。</p> <p>家庭での学習習慣も年々、定着は進んできている。しかし、それが学力向上に結びついていない。そこで、学習の仕方の紹介など、効率よく学習できる方法や内容を紹介していく必要がある。</p>

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・読書の時間はあるが子どもに読む本を任せている学級が多い。そこで、学習時間に読む場合は、物語など字ができるだけたくさんある本を読むようにさせ、読解力を付けるようにさせたい。
- ・読解問題が苦手な児童が多いので、1・2年生がしている国語科の文章題を解く取組を全校で取り組めるようにしていきたい。
- ・学力アップの時間に、簡単な算数の問題を毎日取り組む活動をしている。引き続き、行っていきたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭での学習については、全校で現在行っている「家庭学習がんばり週間」を見直し、もう少し保護者や教師が内容まで助言できるような欄を設け、効果的な家庭学習を目指せるようにしたい。
- ・適切な生活習慣については、「北九州子どもを育てる10か条」を学校行事などに掲示し、保護者と連携していきたい。また、子どもたちにも道徳科や特別活動、保健の学習を通して指導を続けていきたい。